

地方における人材共創プロジェクト

吉川 徹

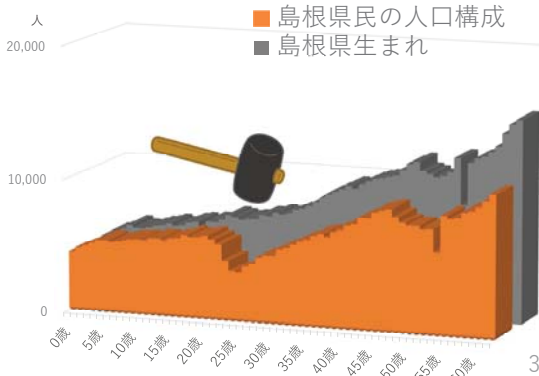
大阪大学 人間科学研究科 社会環境学講座

地方消滅がいわれて10年 課題は解決していない

- 『地方消滅』（増田寛也 2014）日本創生会議
- いわれたキーワードは「選択と集中」
- 政策対応
 - 「地方創生」 → 内閣府 地方再生本部
 - 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定
 - 各自治体の実態を把握して、個別の創生計画を策定
- 社会的な変化
 - 地域おこし協力隊、関係人口、ふるさと納税

2

若年県外流出による人口社会減！（島根県）

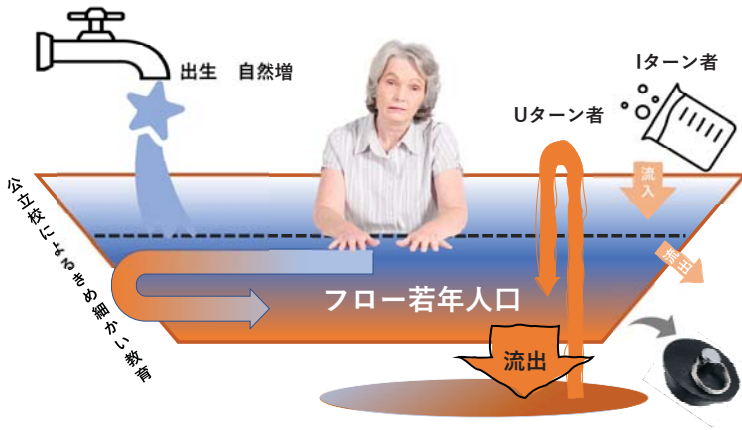


3

地方県の人口社会減の現状イメージ (バスタブ・モデル)

- 浴槽に注水（出生数）し、懸命に加熱・追いだき（地域ぐるみの魅力化教育）をしている。かかわらずフロー水量が漸減していく現状（少子化+社会減）。
- そもそも排水栓が抜けている（高卒進学流出）！せっかく温めたお湯が、ごっそり県外流出。
- 流出分の一部は汲み戻す（Uターン）が、ポンプはパワー不足。
- 別途お湯を入れる（Iターン）が、漏れ出しがち（風の人）。フロー総量の埋め合わせ。
- 「まず、排水を止めようよ！」はなぜ「タブー」なのか？

4



プロジェクト研究実践① 中山間地の魅力化校の変遷と今日的課題

- 島根県立横田高校
 - 平成のはじめ 『学歴社会のローカル・トラック』（吉川 2001）で知られる島根方式の進学流出構造
 - 現在 「地域みらい留学」を受け入れる魅力化校（樋田2020）
- 今日的課題
 - なげなしの教員組織で魅力化実践をすることの難しさ（石飛 2022）
 - それでも生徒数は減り続ける
 - Uターンは増えない、町民人口は減り続けている

6

プロジェクト研究実践② 地元高等教育機関の戦略転換の事例研究

- 地域の視野での高大連携（AP） 2021年度より
 - 地元大学に地元出身者入試枠設定
 - 島根大学「へるん入試」、島根県立大学「ともに育てる入試」
- 県内高等教育機関の連携と魅力化（CP）
 - 福井アカデミック・アライアンス 2014年度より
 - 「ふくい地域創成士」
 - 島根大学「地域貢献人材育成コース」 2014年度
 - 島根県立大学「地域政策学部」改組 2021年度より
- 大卒人材の地元定着のルート確立（DP）
 - 「しまね産学官人材育成コンソーシアム」 2020年度より

7

プロジェクト研究実践③ 地域移動のライフコースの実態把握

- その後の『ローカル・トラック』研究
 - 1974生年横田高校の進学流出者（50歳）の再聞き取り
 - Jターンという島根県特有の恒常性システム
- 「5年後の自分への手紙」研究
 - 2019年の島根・福井・石川・岩手の進学校3年生 4700人進路意識調査
 - 「5年後の自分への手紙」を来年返送 → 「結果どうなったの？」「で、今どうしてる」 Forms回答

8